



學中 坊補  
卷之五 完

























おしくあしくまよふ静夜うそ  
りあふのこころえりけぬちを思ひ  
る山車のみつ代はあふさうれ  
ふふや二軒一やふよき井ふ  
りあふけほをさつるさるあ  
るさくとりあふふのりあふれ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ

おしくあしくまよふ静夜うそ  
りあふのこころえりけぬちを思ひ  
る山車のみつ代はあふさうれ  
ふふや二軒一やふよき井ふ  
りあふけほをさつるさるあ  
るさくとりあふふのりあふれ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ  
まよふあまふりあふのりあふ















梅のむらさきいろのつぼみは  
山吹やさくらとくればは梅の  
梅のやうにけの葉も戦時を  
せらふよとあはれむやあきの  
とあけやうにさくらいろの  
はちみくらさくらもえさす  
あーとふれはあふとあきの  
梅一本門のまららの  
西渡の梅は月あふとあきの  
おきーく 梅の梅の

梅

梅のむらさきいろのつぼみは  
山吹やさくらとくればは梅の  
梅のやうにけの葉も戦時を  
せらふよとあはれむやあきの  
とあけやうにさくらいろの  
はちみくらさくらもえさす  
あーとふれはあふとあきの  
梅一本門のまららの  
西渡の梅は月あふとあきの  
おきーく 梅の梅の







神ちの門をけふく申うれ  
柿ちと口ころちもくとやねさうふ  
と我末をすまふちほくの申うふ  
まをちの道はちをすまぬ申うれ  
何れと人のちいぬをあさうれ  
ふく悔えぬ学たすまぬ申うれ  
けうくとちもふちの梅の事  
昔や梅くささ流くちく梅うれ  
屋根あゝ母々ぬえけり申うれ  
をををさけし肩よりけり梅うれ

吹くくくく梅の口和うれ  
いとぬいよ艶もえゆる梅うれ  
あゝ梅くささけり梅うれ  
くくくく梅梅おとや系申うれ  
まあや月のゆりもあささまを  
くくくく小鼓のさなは申うれ  
まのあは梅梅くささませ  
申のやうくさるのまはく  
かたなまめ

梅のくくくくたらぬくくうれ







牛の糸と袖はこれそめてまの目  
溜あふふ水をとらふやまはの目  
これこれハ織とまふぬまのつま

算すまふま

披よふを帯よふくえるやまの目  
山の井くふくするおとや織 目  
ふふはあにくふくまふおほる目  
まふまのせまふくくく 織はま  
引く白やそのくくのおほる 目  
織目おのくくくある九條くま

まののおと乳くまの糸とちう楯  
まのちあややまのくく田の目  
まのあはまふにまふく風の声  
まのあやの角のほすちうあく  
まのあのとけくもあぬからぬ乳  
猫のまふくまふかくまふく取きり  
おくちと二口くぬふおこのまふ  
はまのまのほもふくく 猫のま  
猫のまのまのまのまのり 中  
猫のまのまのまのまのまのり



あつしうええく遊り居根の猫  
こころれおの月あや啼かす心  
はくちるも古きおの志の地いあふ  
唐きく田もよきくしぬるさうふ  
附おをを田と拵くきりたるく地  
おの根よもとくすのよき地うも  
梅の後ふさきく甲のあさうり  
あふさくはるもさかゆりく地うれ  
終ふあさくやあさうりくはらうり  
き一第やあひみほひいとまきふ

新三一のまうあさうりにる 院  
あさく終もあさくこ小ねたら  
新さ一のあさくあさく小ねくも  
とらうけを終事ふもとく 院  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく  
あさくあさくあさくあさくあさく



ひるこやらのら投ちぬ終めたる  
大隈や小隈のさむとまの声  
こゝろやまのゆるき所ら  
あろゝこゝろこゝろこゝろの  
終つあに入らと見えぬ終めたる  
ゆめふとこゝろこゝろの  
まゝまゝこゝろこゝろの  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
入おのこゝろこゝろの  
こゝろこゝろこゝろ

こゝろこゝろこゝろ

終むとら節や十あはれ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
可算のまをちまの  
大隈のまこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ  
こゝろこゝろこゝろこゝろ



持樫の場さへあるまじく  
枝よけまじくあるまじく  
孫まじくあるまじく  
まぢの抽毛の縁まじく  
かゝらうまじく  
ひらきらの地まじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく

持樫

まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく  
まぢのまじく

持樫







ふんふんふんはるよとの暮る朝  
ふんふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝

おのふんふんはるよとの暮る朝

おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝  
おのふんふんはるよとの暮る朝



病病はれを申す

ふみしりやうしりやうしりやうしりやう

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花

花の後の花の後の花の後の花の後の花



を多くもとめよとちうらめし  
月をくゞりてあつたやあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつた















松風の世あともあつしうぬふ  
ゆりくとえさや日母のさやあ  
親しけく時のあくりやさあ  
吉野山城ある人みちりせう  
孫ぬきの序よをくやさぬの葉  
みしうあのみりもならぬも船山  
経あをみちりもあつたあ  
きふちまのさきやさすく終  
眉山道中

ぬくもあつたあつたあ  
運生れあのおきまやち  
ほととぎすあもあつたあ  
那さあつたああつたあ  
時さあつたああつたあ  
あのおあつたああつたあ  
那さあつたああつたあ  
あつたああつたああつたあ  
あつたああつたああつたあ  
あつたああつたああつたあ



おとつしすの戸まても月あられ  
時争あくおみするをおほええ  
そおつきあやをくらにほくあす  
時付しほのぬひやふめ降  
心助連よこ飛くせのそふとつし  
百まのこほるやせうし一都ふ  
時争あくやとく人の外おと  
都ふやうとあくそ都のすう  
そはまのいまおあふつてり都ふ  
おつしすまのこもやほくこ

おとつしする都の心をあの色  
手留をとももやに入るのほく時  
ふ用そと出くあはし一都ふ  
不ぬあやや都のそあの色  
追うけつしとくや大都の時  
俯向くまや都の心をあの色  
母中くそ音かくれぬあくま  
宝くこくおれ林すや高草都  
流たうし都の下のふめ海  
江戸入く返らぬたうぬ都ふ

木知

木知



まゑのきりきりきりきり止て時を  
川をよつとぬく流きききき 思 魂  
人のけしきちいせきくちりて栄古き  
まをききぬまのゆふりやかんことり  
栄まききぬくや梅系のひびき  
いんこときききききききききき  
りききききききききききききき  
まのさききききききききききき  
まききききききききききききき  
濱うきききききききききききき

廣海や一いんえゆるかきりきき  
杜のきききききききききききき  
ききききききききききききき  
ききききききききききききき  
おきききききききききききき  
枝木をぬく中やかききききき  
いりけやききききききききき  
おきききききききききききき  
ききききききききききききき  
たきききききききききききき



まぶのあまう桶へおとすやおら  
むと花あらしまふやらのおらふた  
あのおまへいえる池のおまへ  
杜の海まのくろくあつてりま  
おふりのふとちかき一廿一  
くまのまのまの付くろくまのま  
くちまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのま  
け一のまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのま

まぶのあまう桶へおとすや  
むと花あらしまふやらのおらふた  
あのおまへいえる池のおまへ  
杜の海まのくろくあつてりま  
おふりのふとちかき一廿一  
くまのまのまの付くろくまのま  
くちまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのま  
け一のまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのま



獲うつくさハそりりけしめふ

世をひうけるる海井るに任

る謀阿まぬよ早おしき

そらまめれおし暇の付任みうれ

持実て操人おるりみふくを由

吟詠大能(五)あまき

一口のまろろを(五)あまき

色もく教とて甘くゆるいあふふ

る向せよひとくありけりあふふ

結核ふりよえてあまき(五)あまき

と舞るのつらりとるあまき(五)あまき

内と細とてあまき(五)あまき

三日月のちとつらりとるあまき(五)あまき

をみとてあまき(五)あまき

きつとてあまき(五)あまき

古井あまきのあまき(五)あまき

あまき(五)あまき

りあまき(五)あまき

うまあまき(五)あまき

あまき(五)あまき











とくくるとヤ枕もひくふ礫の宿  
ちくくれのくのみおある漁村の家

先師の晩年

葬く妻の思ひや果くる  
袖ふるもくくや後めもくく  
おのくふみちくくくく串  
一里不と先くくくく相のむ  
飛ましくくくくくくく  
帳工けをたぐくくくく  
枕際の湯くくくくくく

おぬくをくくくくくく入  
きくくくくくくくくく  
うくくくくくくくくく  
きくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
静もくくくくくくくく  
晩鐘をみくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
二所くくくくくくくく



ある魚のむくふ霞の移う南  
をくまよひと息つや米飛脚  
夕うねのうくにけあぶくうりうね  
中ふちやきつこれの内はむひとら  
ゆふもねよ又たさくうり古きしむ  
夕鳥やうけ入るまのひと掃除  
投子にむとらうりうりひる乃清  
波重りやあまの川とさゆりり  
着目のものあき中よも唯のうく  
掻うけく掻よささるく業見うあ

あかあにたりあまをせもる業のせ  
小ちいらのたしよ業人のふらしたし  
志あくらさるくうらまふ業人うね  
麻うけをうらまはるはあうあ  
里人のちらちらうらまふ  
一文のうらまふよまはは水うま  
孫身やあまをうらまふまよひ  
大水のりや川可うらまふ  
うらまふうらまふうらまふ  
うらまふうらまふうらまふ



つ耐志と尋まうさるれ也了  
まことさきふ

山をしらちまひくちそまぬいせ  
らうまれーすゝゝあつのみふらふ  
ゑきゝゝのせゝゝほーやーあ酒  
まゝゝやけへの鶴をのまゝさけ  
塙のまゝのまゝゝまゝゝゝゝゝゝ  
はげやゆめのちゝねゝせみのまゝ  
せゝゝゝやあゝゝゝゝゝゝゝのゝ地  
旅人けあけ揃りりせゝゝゝゝ

塙よりもゆゝゝ出来さゝれ川  
のゝゝゝやぢゝりゝゝゝゝゝゝ  
みゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山本るまゝゝゝゝゝゝゝ  
ゆゝゝゝゝゝゝゝ田の中やゝゝゝゝ  
六月やまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
たのりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
終あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ











一花のおぼろげなうらみ  
ささ乃海よちかき

るまよのたしるよまをわたくしあつ

せんは二十五田ん

ありしをきよのしるよまのうらむ

こ 二十田ん

めはらしきまをわたくしあつはし

うらむのたしるよまをわたくしあつ

社

おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
人むらうの中よまをわたくしあつはし  
たかむらうのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし  
おの井はまのうらむのたしるよまをわたくしあつはし







ちの秋のころをたのむ  
 けふの秋のせきある小舟うれ  
 ちの秋やまに市をらむおぼゆる  
 初あまやははくくくく けふの市  
 ちの海やほくふ易ふ一泊籠  
 ちを禁くみき 秋来る庭を  
 秋ころふふふ 晴く秋のそ  
 栞あまあまの氷は伏ふく  
 ちのちや人ふりやきき 栞く本  
 栞くふやふりあまのちのたゆみ

昔くふきをやりあつたのふみう  
 栞あまやまをばみくちのち  
 初うほやまのあつたあまのち  
 市中やまのあつたのち  
 初らう まぬのあつたあまのち  
 ちのちやまのあつたあまのち  
 ちのちやまのあつたあまのち  
 ちのちやまのあつたあまのち  
 ちのちやまのあつたあまのち  
 ちのちやまのあつたあまのち



三六  
きんやうくまのしんまの  
ゆるいやすきねのせよまの  
くすねいんはすいぬやとねの  
まゝとまゝにんまのしんまの  
つとまゝやねまのしんまの  
枝こゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝ  
おまゝまゝまゝまゝまゝ  
り人のうまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝ

ぬれやあのまゝまゝ  
泥水のくまゝまゝ  
ゆゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝ  
相まゝまゝまゝ  
おまゝまゝまゝ  
推ひまゝまゝ  
推まゝまゝ  
七まゝまゝ  
たまゝまゝ



七夕をあらわすもろもろの  
 結ぶるはなはなとてふらふら  
 けひかきふ川橋をたふらふら  
 りたふらふらけすたふらふら  
 七夕や新しめきふらふら  
 せあまのあまきふらふら  
 ほー合のおをたふらふら  
 かも川のくくふらふら  
 横河まきふらふら  
 ふらふらふらふらふら

いほくーはらふらふら

とさふらふらふらふら  
 是てくる秋のくくふら  
 ちのきふ種秘ふらふら  
 せあまのあまきふら  
 土橋をこすやあふらふら  
 けのたやつらふら  
 ちらちらの中ふらふら  
 月むらふらふら  
 えふのはけふらふら



大文をよみたり見ゆやふりの時  
大もしやをくりにあつとひとく  
さし結や隣へやもおもてても  
あ結よそくりに依母のひねり  
お忍ことにもあつと守もるう  
刺結を一四出すや茶のし  
世をのうぬく小娘のし  
すすなみく人を  
そのし小娘の小あをるうし  
るうし一此良乃のやとふり

いよあらははるも海へる幸  
まはつとくをりよちよ  
はるしつとをるうや日ま  
勢路やせあら希の口もら  
と茶のしつとまお世と  
いつと茶のしつと  
勢路や子種志めしひとあ  
人住ちかくの海や一の  
大寺の教あかえり稻のつ  
啼とくこの尾とをあらく秋の



















秋の光りよゆさうふりおんとはり  
来る所よとむとむりや海り  
とは所 秋一 ちかき 秋  
きき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき  
秋の光りよゆさうふりおんとはり  
来る所よとむとむりや海り  
とは所 秋一 ちかき 秋  
きき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

秋一

秋の光りよゆさうふりおんとはり  
来る所よとむとむりや海り  
とは所 秋一 ちかき 秋  
きき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき

秋の光りよゆさうふりおんとはり  
来る所よとむとむりや海り  
とは所 秋一 ちかき 秋  
きき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき



年うらなむさかしくおもく 秋の目  
まうけのさかしくらうらうらふの母  
るあはれのはましくまのまのま  
こちうら

牛ひとをふくまふちまふやうふの目  
三挿すと持や目ちまふ秋の目  
まうらまうらうらうらうら秋の目  
月々香のまふまふのまうらうら  
月こまふのまふまふのまうらうら  
此のまふのまふまふのまうらうら

名月やすきまのまふまふのまうらうけ  
まうらやまのまのまのまのまのま  
めい月やひとまのまのまのまのま  
名月のまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま  
まうらやまのまのまのまのまのま







はらふおとよにせむる月乃あ  
思案しき指さみりくの  
池のるはらまをくく月の  
峰くけまはるよんこるの  
人よ進くはるまをくくの  
きほや月のわらわをく  
あふをぬくちあけくらの  
望田母

望田母

月付やまやんまの  
月十六おきき首うた

月をふちるもすく  
待るはは見ぬ  
目代よせんまのやめ  
十六ののののの  
りはらひやまはら  
十のちやまはら  
いさよまのち  
権とめく月さ  
まはるもみはる



小籠 煮るやちかふんふんふん  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
ちとほろあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
秋の路の葉とちかふんふんふん  
夕山をたゞよふあゝあゝあゝあゝ  
はるるあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ



















乙卯の秋九月  
甲申の秋九月  
まこと  
ふらぬ

店喜 湯くねる

冬

えれくや  
橋  
十月  
ね  
山  
あ  
あ



お坂乃あきりの紀の古歌ふし  
とらちやけ路のまうとらけい

日も水もやみりふたの稲と路  
野ははるのは浦ふりあはるお時  
神くれりふけり留のまきりりり  
ほよりみちのしん乃まらみ  
おらちの種まきれしおーく種  
おーくまきまらくしてはあし  
ふまよまらけしらぬおとみ  
たらんやうけうまあくまくれう

田舎まのえゆるまやおーく  
やぶらまおあえりけしりりり  
おかてあくまをけらおお  
ひと叫ましんまらあめりり  
ーくれまきまらけららの種  
まらまくのまら甲まらりり  
ーくまや路す細川川あ  
まらまやまあくららりり  
まらまらあまらりりりりり  
まらりの泡りりりりりり

田舎まのえゆるまやおーく



















ろり〜ゆめ大枝ぬ〜山のた〜  
大枝豊中博のえゆるそきよ〜  
志かみみ〜

大枝引志うら人三木の格ひら〜  
扉の戸はおもゆるや大枝引  
ゆく雪のふより低支拵ゆ〜  
ときめ〜くま〜や拵ゆの格支  
まゆ〜あふゆ中のぬ〜きりれの  
ぬ〜の〜の〜の〜拵ゆ〜  
あり〜ち〜も〜や拵ゆの〜

侍〜ちふ碓〜え〜ゆ〜のゆ  
格の〜も〜一〜あま〜拵ゆ〜  
ね〜は〜ゆ〜ふ〜あ〜拵ゆ〜  
〜代〜ん〜や〜ゆ〜の〜れ〜  
〜ふ〜と〜ゆ〜拵ゆ〜  
〜ゆ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜拵ゆ〜  
一〜に〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

貞おを〜ゆ〜  
かゆ〜き〜ゆ〜ゆ〜や拵ゆ〜  
〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜



定浦さうき母

あつたまのきよふれぬおぼろけ  
うきうきのふや傷くらもらわらぬ  
うきうきや秘を悟するよええぬお  
うきうきや握くきくくおのわらぬ  
うきうきやおらちのきくきくきく  
うきうきやきふのくくく勝手先  
うきうきのまきくくくや細く  
おらちのきくくくくくくくく  
うきうきのまきくくくくくくく

獲越

うきうきと握るはあさくくく  
うきうきを悟るくくくやあさくく  
うきうきや獲の小おらちのきく  
うきうきくくくくくくくくく  
うきうきのおぼろけひぬきくく  
うきうきのまきくくくくくくく  
うきうきのまきくくくくくくく  
うきうきのまきくくくくくくく  
うきうきのまきくくくくくくく































縁見之と云ふやな一の  
折る来々打て入る陰おの極う南  
大と一やれ結の出来る口くれこ  
西宮のあつらひおの  
母おの井の  
ちちやたはこ一の  
あ一のえぬおふ一乃  
飯はちるまもるるに不の

蒼札おまの系標庵の二世を  
圃ふ先師の拓けり洛の  
たまらぬ札の極なりおの  
一母の  
た一は  
は  
を  
増補一札より社中



此の世に福をよめるは多し、但し上は下は  
 互にたすむるなり。此の集は、おろしとて、  
 撰写し、礼法、礼法をわけて、  
 売まを採り、  
 究るゝこ

か、福重博、槐庵の世

大寺法

嘉永五年子初



明治廿三年八月廿五日印刷  
 明治廿三年八月廿六日出版

(定價二拾錢)

編輯兼  
發行者

礪波成作

石川縣金澤市野町  
六丁目廿五番地

印刷者

森川齊

石川縣金澤市支蕃町  
二番丁二番地

發行所

雲根堂

石川縣金澤市尾張町  
五番地





雲根堂藏版

石黑魚淵編輯  
詞乃山飛之折本  
全壹冊

定價六錢

京都畫工久保田米儼君題畫  
牧野一平編輯  
日本之美術

全壹冊

定價三拾錢

佐藤衡齋先生書  
吟香帖

全三冊

定價二拾錢

產婆講師稻坂三吉先生著述  
產婆婆心得

全一冊

定價二拾五錢

關以雄校訂  
標記十八史略校本

全七冊

定價七拾五錢

佐野正藏著述  
和算新書

壹冊

定價八錢

穎才材料  
金城新誌合本

壹冊

定價二拾錢

和田文次郎先生著述  
憲法講義

全壹冊

定價二拾錢

井波他次郎先生纂譯  
新撰英和字典

全壹冊

定價八拾錢





